

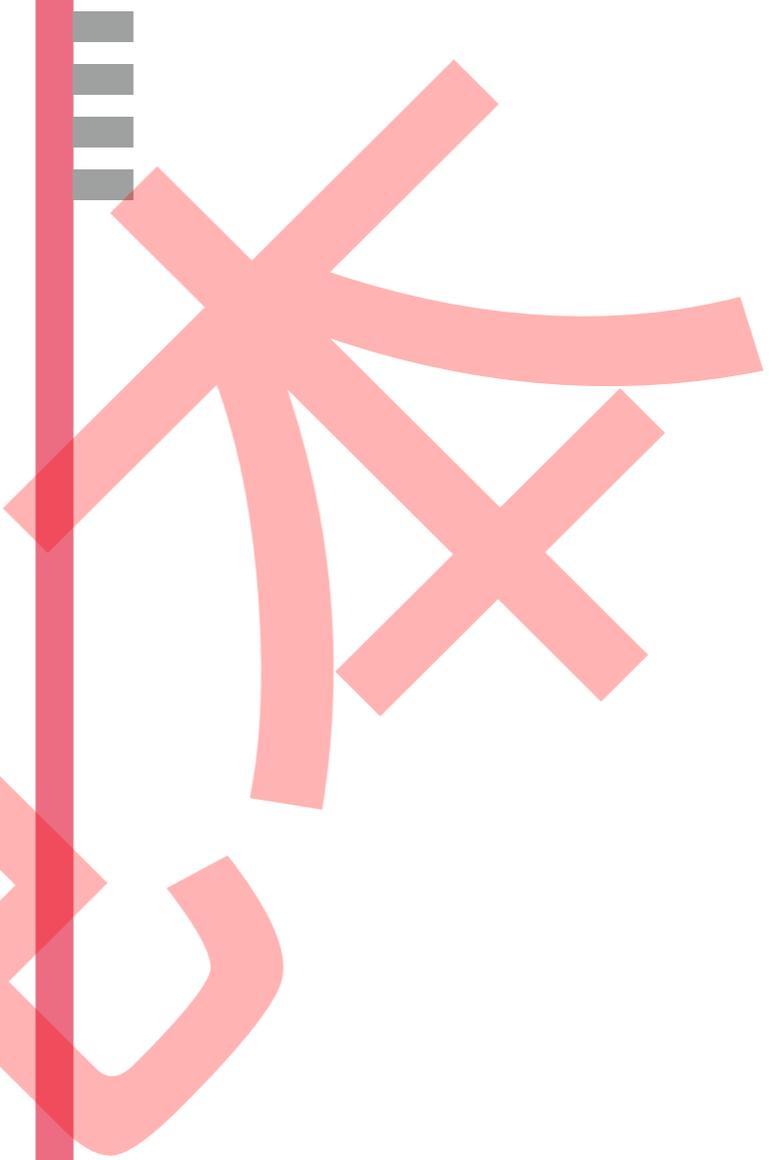
令和  
**6**  
年度版

# 作文の友 4

～書くこと 大好き～



愛知教育文化振興会  
三河教育研究会



<b>4</b>	年		組	名 前	
----------	---	--	---	--------	--



原稿用紙の正しい書き方

# 原稿用紙の使い方・書き直し方

題は二、三マスあける

三行目から

書き出しは一マスあける

ただし「から書き出すときは一マスあけない

話しことば・会話は行をかえる

話しことば・会話の二行目は一マス下げる

会話文の次の行から新しく文が始まるときは一マス下げる

話の内容が変わるときも一マス下げる

書き直すときの記号  
つけくわえる  
書きかえる  
とる  
行をかえる

三 人 で に じ の ふ も と を 主 人 で さ が し に 行 く

お 姉 ち ゃ ん が 聞 き ま し た が わ か り ま せ ん

あ る の か な 。 ど こ か ら 出 て る の か な

に じ て ふ し ぎ だ ね 。 ど う し て い ろ ん な 色 が

と 、 お 兄 ち ゃ ん が さ け び ま し た 。

や ん と 遊 ん で い る と 「 あ 、 に じ だ 」

ず っ と 小 さ い こ ろ に お 兄 ち ゃ ん と お 姉 ち

に じ の ふ も と

「。」一マス

す ず 木 し お り

一マスあける

「と」は書くと同じマスに

いちばん下の「、」「。」はマスの中に入れる

さいごの一マスあける

## 先生と保護者の皆様へ

- ・教科書との関連を図っています。
  - ・児童が自分の力で文章が書けるようになることを意図して編集しています。
  - ・参考作品は「みかわの子」や地域の読書感想文集に掲載されているものを使っています。
- なお、掲載作品の学校名、地区名については執筆時の名前で表記されています。

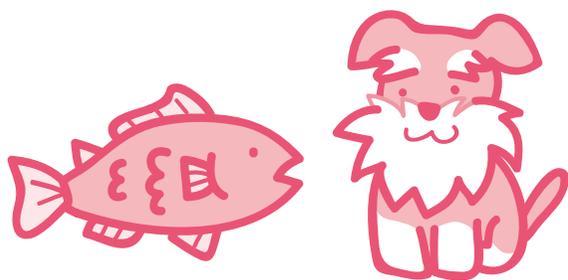
令和6年度版 作文の友 4年

編集 「作文の友」編集委員会  
三河教育研究会  
刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会  
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1  
電話 0564-51-4819  
印刷 あいち印刷株式会社

※無断で複写・複製することを禁じます。

# わたしのクラスの 「生き物図かん」を作ろう

○だん落どうしのまとまりを考えて書きましよう



# 作文の友

～書くこと 大好き～

4



## 目次

①	わたしのクラスの「生き物図かん」を作ろう……2
	・だん落どうしのまとまりを考えて書きましよう
②	山場のある物語を書こう……6
	・組み立てを考えて、物語を書きましよう
③	本は友達 四年生の本だな……9
	・読書感想文を書きましよう
④	詩を書こう……15
	・言葉から想像を広げて詩を書きましよう
⑤	お願いやお礼の手紙を書こう……23
	・相手や目的を考えて手紙を書きましよう
⑥	「和と洋新聞」を作ろう……27
	・目的に合わせて材料を整理して書きましよう

あなたは、どのような生き物が好きですか。動物や  
こん虫、魚や植物など、自分が好きな生き物について、  
調べて分かったことや考えたことをリーフレットにま  
とめましよう。

### 学習の見通し

- ①好きな生き物をえらび、材料を集める。
- ②だん落どうしのまとまりを考える。
- ③リーフレットを作る。
- ④クラス一さつの「生き物図かん」をまとめる。

☆「だん落どうしのまとまりを考えて書く」ために……

- ・読み手に伝えたいことの中心を明らかにして書く。
- ・問いと答え、調べて分かったこと、自分の考えなど、一つ一つのだん落の内容と、だん落どうしのまとまりをあわせて考えて書く。
- ・読み手に分かりやすく伝えるように、「始め」「中」「終わり」など、文章全体の組み立てを工夫して書く。

一 好きな生き物をえらぼう。

(1) あなたは、どのような生き物が好きでしうか。動物やこん虫、魚や植物などから、好きな生き物をえらびましょう。

(2) えらんだ生き物について、気になることや知りたことを書き出し、本やインターネットで調べましょう。動物園や植物園、ペットショップで働いている人に聞いてみるのもよいです。知りたいと思ったことや、調べて分かったことなどは、メモに書き出しておきましょう。

図かんにのせたい生き物

知りたいと思ったこと

調べて分かったこと

・

・

・

・

・

二 だん落どうしのまとまりを考えよう。

集めた材料をもとに、リーフレットの組み立てメモを書きましょう。中ページで伝えたいことは何かを考え、問いと答え、自分の考えなど、だん落どうしのまとまりが分かりやすくなるよう整理するとよいですね。

テーマ	くわしく伝えたいこと	まとめ
(始め) 表紙	(中) 中ページ	(終わり) うら表紙

# 山場のある物語を書こう

○組み立てを考えて、物語を書きましょう



絵を見ながら、山場で起こる変化を想像して、物語を書きましょう。

## 学習の見通し

- ① 物語の設定せっていを考える。
- ② 物語の組み立てを考える。  
↓組み立てを考えて物語を書く
- ③ 物語を書く。
- ④ 物語を読み合い、感想を伝え合う。

☆組み立てを考えて物語を書くために

- ・ 物語の山場で起こる大きな変化について考える。
- ・ 始まる場面、山場へ向かう部分、山場、終わりの場面の組み立てで書く。
- ・ 山場で、何が変わったのか、なぜ変わったのかを考えて書く。

## 三 リーフレットを作ろう。

メモをもとに、文章を書き、リーフレットを完成かんさせましょう。リーフレットの題名や、どのような絵や写真をのせるか、考えましょう。下書きが書けたら、文章を見直し、リーフレットを清書しましょう。見出しの内容が、よりくわしく分かるように書くことよいですね。

## 四 作ったリーフレットを友達と読み合い、たがいのよいところを見つけて伝え合おう。

( )

より ( )

( )

より ( )

( )

より ( )

## 五 友達からの感想を読んで、自分の書いたリーフレットをふり返ろう。

一 物語の設定を考えよう。

教科書(上)83ページの始まりの場面と終わりの場面の二まいの絵から想像を広げて、時、場所、人物などの物語全体の設定を考えましょう。

時

場所

Blank box for time setting.

Blank box for location setting.

人物

Blank box for main characters.

Blank box for other characters.

・絵にかかれてるのは、いつ、どんな場所なのか考えましょう。

・それぞれの人物の名前やせいかくを考えましょう。また、その人物が好きなこと、こまっていることなどについても考えて書いてみましょう。

【中心人物】

【せいかく など】

【中心人物以外の人物】

【せいかく など】

二 物語の組み立てを考えよう。

三 「組み立てメモ」をもとに、物語を書こう。

二・三は後ろの33ページ〜36ページを使いましょう。

四 作った物語を友達と読み合い、おもしろかったところや、山場の変化や場面の様子がよく分かるように書いていたところを伝え合おう。

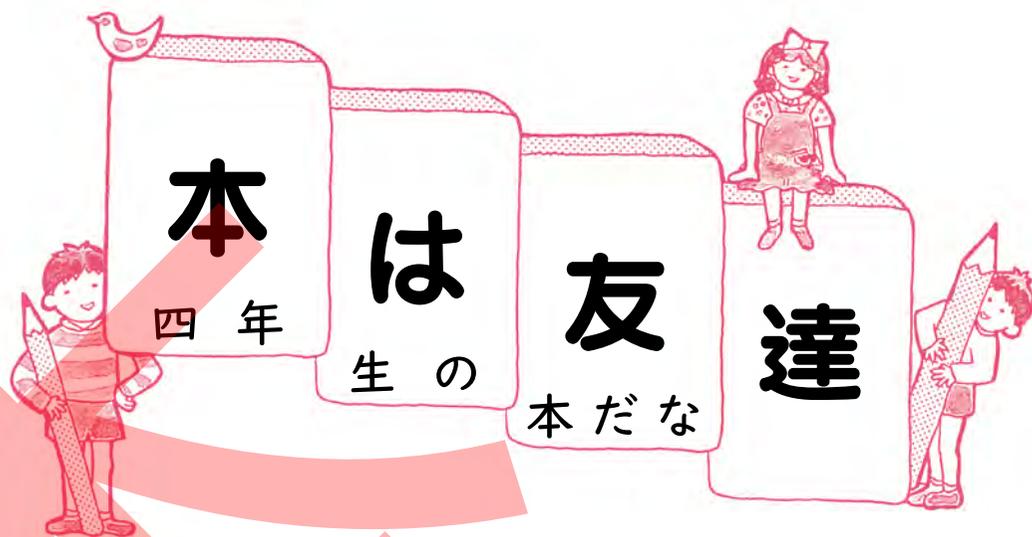
Handwriting practice box with vertical lines and a space for a name in parentheses.

Handwriting practice box with vertical lines and a space for a name in parentheses.

Handwriting practice box with vertical lines and a space for a name in parentheses.

五 友達からの感想を読んで、自分の書いた物語を振り返ろう。

Large handwriting practice area with multiple vertical lines and a space for a name in parentheses.



### ○読書感想文を書きましょう

本を読むと、わたしたちは、新しいことを知ったり、強く心をゆさぶられたりします。そして、いろいろなことを考えさせられます。

本を読んで、強く心をゆさぶられたり、考えたりしたことを書いてみましょう。書くことによって、より深く考え、自分を見つめることができるようになります。

本を読んで感じたことや考えたことをすなおに書いてみましょう。その本を読んでいない人にも、よく分かるように書きましょう。

ただ「おもしろかった」とか、「感心した」と書くだけでなく、「どうおもしろかったのか」「なぜ、自分は感心したのか」を書くことが大切です。

また、自分の考えやけい験をもとにして書くことよいでしょう。

### 一 感想を出し合ってみよう。

○ すばらしい本と出会うことで、あなたの生き方や考え方が大きく変わることもあります。そんなすてきな本と出会うために、いろいろな本を読んでみましょう。

○ 読んだら、友達と感想を話し合ったり、その本の良さをしようかいし合ったりしましょう。自分では気づかなかったことを見つけたり、友達のよい考え方や感じ方に会えたりします。また、話すことで自分の考えがまとまります。

お母さんぎつねの心配が、本当にならなくてよかったね。

ほし屋さんがやさしい心の持ち主だったからだよ。



### ろく 読書記録

読んだ日	書名	作者名	分類
月 日			
感想			
月 日			
感想			

## 二 作品に学ぼう。

### ほんの少しの勇氣

江南・草井小 三ツ野 あさぎ

- ① ペラペラとめくって、すぐに本をとじた。何となくこの本を読もうという気になれなかった。それはたぶんサトシが未来のわたしと重なって見えたからだと思う。
- ② 主人公のサトシは転校して来たばかりで友達が作れず、いつもひとりぼっち。作ろうとしなくても友達がいたサトシには、友達の作り方がわからない。友達がほしい。それが、サトシのねがいだった。
- ③ わたしが転校すると決まったのは、四年生になってすぐのことだ。泣いているわたしに、「きつとすぐに友達ができるよ。」とお母さんは言ったけど、すぐに友達ができるとはどうしても思えなかった。今の友達は何年も何年もかけてしぜんと仲良くなった子たちばかりだ。それなのに急に友達が作れるはずなんてない。転校先でひとりぼっちでいるサトシが、未来のわたしに見えてきて、ふあんでおねが苦しくなった。

- ④ そんなサトシのもとに青いカップがやって来る。サトシはとまどいながらも、カップと今までやったことのない新しいことにしようせんしていく。
- ⑤ わたしには、なぜカップがねがいに関係のないことばかりさせるのか分からなかった。友達を作ってあげればすぐにサトシのねがいはかなうのに。でも、「たいていの願いごとは、本人の力でどうにかなるのさ。」というカップの言葉で、サトシに自分の力でやりとげるうれしさを知ってほしかったからなんだと気がついた。「ちょうせん、ちょうせん！」と何回もサトシに言い聞かせていたのは、サトシをばげまそうとするカップのやさしさだったんだらう。「やりなさい」って言われてもちつともうれしくなんかないから。
- ⑥ 新しいことになかなかちようせんできないところもわたしとサトシはそっくりだ。初めて食べるものは食べてもないのに、つい「きらい」って言ってしまったり、運動が苦手だから、やったことのないスポーツは「どうせできない」って思ってしまう。でも、この本を読んでカップとサトシにほんの少し勇氣をもたらした。初めから自分の力でやりとげるうれしさを感じてみたい、そう思えた。

### ☆書き出しをくふうしてみよう

- ① 作者は、本を読む前の自分の思いや考え方から書き出しています。

(~~~~~の部分)

書き出しは、

- ・ その本を読んだきっかけ
- ・ 本を読む前の自分の思いや考え方などを書くとよいでしょう。

### ☆中の部分を組み立てよう

- ② 主人公のサトシについて書いてあります。
- ・ 作品の内容ないようしよいかいは、あまり長くならないようにしましょう。
- ③ 「わたしが転校すると……」のように、主人公のサトシと作者の共通点を書いてあります。
- ・ 自分の立場やけい験とくらべて書いています。

- ④ サトシが変わるきっかけとなった、カップをしようかいています。
- ⑤ 「わたしには、なぜカップが……」では、書きたい内容である、疑問に思ったことを最初さいに書いています。
- ・ 「友達を作ってあげればすぐにサトシのねがいはかなうのに。」  
『やりなさい』って言われてもちつともうれしくなんかないから。』のように、思ったことや感じたことをそのまま書くのもくふうです。(~~~~~の部分)
- ⑥ サトシと自分を重ねて、サトシがカップをきっかけにちようせんすることができたように、わたしもこの本をきっかけとして、自分の力でやりとげてみたいという思いを書いています。(~~~~~の部分)

⑦ わたしは、十二月からドイツの日本人学校に通う。少しずつ引っこしのじゅんびも始まって、心がそわそわ落ち着かない。本当は住みなれた今の家のままがいい。本当は今の学校で、今の友達のままがいい。でも、ずっと変わらないままでもいいからって、下を向くのはもうやめようと思った。きっとこれはわたしが変わるチャンスだから。成功するかしっばいするかなんてわからないけど、転校したら、新しい友達を作るという大きなチャレンジをしてみよう。初めはドキドキして、声もかけられないかもしれない。そんなときは、カッパの言葉を思い出そうと思う。

「ちようせん、ちようせんく！」

きっとわたしにも、ちようせんする勇気をくれるはずだ。

(『読書感想文集 天空』令和四年度)

著者 松井 ラフ

書名 「青いあいつがやってきた!」

発行所 文研出版

☆終わりの部分をくふうしよう  
 ⑦ 本を読んで見つけた目標ひょうを書いて終わっていますね。本の登場人物のせりふも効果的に使われています。心に残るのこようなまとめ方にすることも大切です。(……の部分)



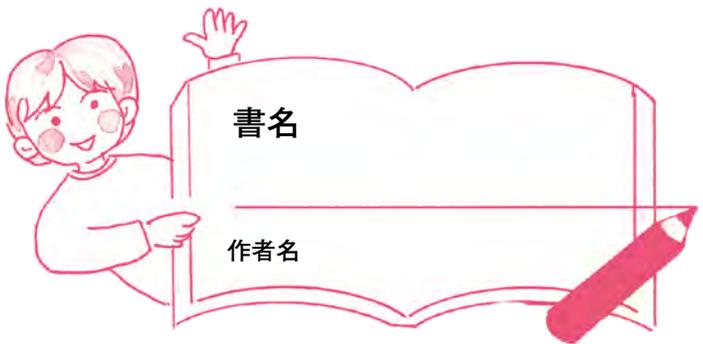
### 三 感想をメモにまとめてみよう。

心に残った本を一さつ選えらんで、感動した場面を中心にメモをしましょう。

①この本を選んだわけ、この本と出会ったときのことを書いてみましょう。

②心に残った登場人物の言葉や行動をぬき出してみましよう。

③この本を読んで考え直したことや、考えさせられたことを書きましよう。



### 四 組み立て表にしてみよう。

四は後ろの37ページ〜38ページを使いましょう。

# 詩を書こう

○言葉から想像そうぞうを広げて詩を書きましょう



みなさんは、これまでに詩を読んだことがありますね。おもしろいなと感じたことはありませんか。声に出して読んでみて、楽しいなと思ったこともあるでしょう。

詩は、人の心（気持ち）をうつし出す鏡かがみのようなものです。みなさんの好きな歌にも詩（歌うた）があります。また、はいくや短歌も詩のなかまです。

みなさんも、詩「習字」や「ぼくは自転車」、「ご飯大好き」を手本にして、自分だけの詩を書いてみましょう。感じたこと、心が動いたことなどを、短い言葉や文を使って自由な形で表しましょう。すなおな気持ちで書いてみましょう。

## 習字

知立・来迎寺小 田中 諒

ぼくにとって習字の時間は少し特別とくべつ

ふだんはあまりじっとできないし

おしゃべりなほう

何かするとたいてい

「もっといいねいにやりなさい。」

とお母さん

「落ち着いてやれ。」

とお父さん

だけど習字の時間はちがう

一 書くことを見つけよう。

◎ 心を動かされたことから

毎日の生活の中で、心を動かされたことはありませんか。

(例) ・リコーダーがふけるようになった

・なくした物を友達がいっしょにさがしてくれた

・お母さんにしかられた

・トイレのそうじを進んでした

・手紙を書いたら返事がきた

では、作品「習字」を読んでみましょう。

作者は、いつものおしゃべりな自分ではなくなる、習字の時間の特別な自分のすがたを表したかったのですね。

心を静かにしてきちんと正さず

半紙をぴんと伸ばして筆の先をとがらせる

黒くてぴかぴか光るぼくじゅうを筆にすわせる

お手本を横目で見ながら

鼻でこきゅうを整える

今だと思ふときが来る

すうつとすみかのびて

真っ白な半紙にぼくの心が表れる

足のしびれが気になり出して

となりでいたずらする友達に

仕返ししたいと思ったしゅん間

「ああ、しまった。」

失敗失敗

自分が好きなことをしているとき、いつもは

落ち着きがなくても、集中できる。そんなこと

があります。そんな集中しているときの動作を

一つ一つ順番にいいいに思い出しています。

その動作にこめられた気持ちと、その高まりが

よく伝わってきます。(――の部分)

二 書き方をくふうしよう。

「習字」の書き方には、どんなくふうが見られますか。

① 様子を表す言葉を多く使う

ぴんと

ぴかぴか

すうつと

道具のじょうたいや、動作の様子を表す言葉

を多く使うことで、習字に対する強い気持ちや、特別な思いがよく表れています。

② 言葉をくり返す

失敗失敗

静かに静かに

心の中の言葉をくり返すことで、作者のあせる気持ちや自分に言い聞かせようとする気持ちがより伝わってきます。リズム感も生まれます。

③ 物を人のように見立てて書く

筆が勝手におどり出す

筆が生きているかのように表すことで、作者の思いとはちがって失敗してしまった様子が伝わってきます。ユーモアも感じられます。

目をとじて

静かに静かに

もう一度ぼくの特別な時間のぎ式を始める

やった書けたぞと思える日もある

今日はだめだとあきらめる日もある

あせをぬぐうとほほに一すじすみのあと

習字

それは ぼくの好きな特別な時間

(『みかわの子』第53号)

## ぼくは自転車

刈谷・住吉小 青木 悠真

ぼくは自転車

いつもあの子を乗せている  
いろんなところをいっぱい旅したね

あの子が大きくなる度に

ぼくも一生けん命せのびした  
けれどあの子はどんどん大きくなっていく

いつの間にか大きい自転車が来て

最近ぼくはほったらかし

ぼくはほこりをかぶりながら

まだ乗れるよとチリンと鳴らしてみた

ある日あの子はぼくをピカピカにした  
うれしくてぼくはチリンと鳴った

次の日ぼくは車に乗せられた

どこ行くの？

どうされるの？

ぼくはさみしくなってチリンと鳴いた

目を開けるとそこは友達の家だった

小さい子が笑ってくれた

よろしくね 新しいご主人様

ぼくはチリンと元気にあいさつをした

(『みかわの子』第55号)

## ご飯大好き

高浜・高浜小 神谷 郁弥

ぼくは食べているときが幸せだ  
ほかほか、つやつや、もちもちのお米  
ご飯を食べているときが幸せだ  
ご飯が大好きだ  
茶わんに何ばいでも食べられるぞ

おかずを一口

ご飯をパクパクパク

みそしるを一口

ご飯をパクパクパク

気づけば茶わんは空っぽだ

「おかわり。」

ぼくは元気よく茶わんをわたす

「またごはんばかり食べて。」

「バランスよく食べなさい。」

母さんがあきれ

おかわりが来た

おかずを一口

まだ乗れるよとチリンと鳴らしてみた

ある日あの子はぼくをピカピカにした  
うれしくてぼくはチリンと鳴った

次の日ぼくは車に乗せられた

どこ行くの？

どうされるの？

ぼくはさみしくなってチリンと鳴いた

目を開けるとそこは友達の家だった

小さい子が笑ってくれた

よろしくね 新しいご主人様

ぼくはチリンと元気にあいさつをした

(『みかわの子』第55号)

ご飯をパクパク  
みそしるを一口  
ご飯をパクパク  
それでもご飯が先に無くなる

「母さん、おかわり。」

「食べすぎじゃない。これでおしまいね。」

と、お母さんが言う

「ええっ。」

と、残念そうにぼく

おかずを二口

ご飯をパク

みそしるを二口

ご飯をパク

おかずとご飯の量が同じになった

最後の一口をパク

「ごちそうさま。」

本当はもっと食べたいな

ほかほか、つやつや、もちもちのお米

いつも笑顔にしてくれる

ご飯が大好きだ

(『みかわの子』第56号)

### 三 気持ちを表す言葉をくふうしよう。

詩では、心を動かされたことを題材とするので、気持ちを表す言葉をくふうすることが大切です。下の言葉から二つ選んで、他の言い方を考えてみましょう。

(例)

うれしい

- ・とびはねたくなるほどうれしい。
- ・うれしさのあまり、泣きそうになる。
- ・顔がわらってしまって、なかなか元にもどらない。

気持ちを表す言葉

- ・どきどき
- ・そわそわ
- ・わくわく
- ・楽しい
- ・うれしい
- ・悲しい
- ・びっくり
- ・はずかしい
- ・不安になる

### 四 詩に書くことを見つけよう。

このごろの学校生活や家庭生活の中で、心が大きく動いたことを思い出してみよう。楽しかったこと、うれしかったことだけでなく、悲しかったこと、はらが立ったことなども思い出してみよう。

--	--	--	--	--	--	--	--

この中で、詩に書きたいと思ったことについて、□の中に○を書きましよう。

### 五 詩に書くことをふくらませよう。

題材が決まったら、そのときの出来事や様子、気持ちをできるだけくわしく思い出して、詩の材料集めをしましょう。目で見ただけでなく、音、会話、におい、さわりごこち、味などのことも書けるとよいです。

題材

出来事や様子

そのときの気持ち

# ねが お願いやお礼の 手紙を書こう

○相手や目的<sup>てき</sup>を考えて手紙を書きましょう



手紙は、お願いやお礼、案内などいろいろな目的で書かれます。今までに、どんな手紙を書いたり、もらったりしたことがあるか思い出してみよう。

## 学習の見通し

- ① 手紙に書くことをたしかめる。
  - ② 手紙を書き、読み返す。
- ↓相手や目的を考えて手紙を書く

☆相手や目的を考えて手紙を書くために：

- ・手紙の目的が分かるように、用件<sup>けん</sup>をはっきりと具体的に書く。
- ・前文、本文、末文、後付けといった手紙の形式に気をつけて書く。
- ・ていねいな言葉で書く。
- ・書いた手紙を読み返し、まちがいや相手に対して失礼<sup>しれい</sup>な点がないかたしかめる。

## 一 手紙に書くことをたしかめよう。

□ 次の二つの手紙を読み、手紙の書き方をたしかめよう。  
□ 市役所の中田さんに、資料<sup>しりょう</sup>の送付<sup>そうぷ</sup>をお願いする手紙

初めてお便りします。

わたしは、谷川小学校の四年生の森田あやといっています。今日は、お願いがあつてお手紙を書きました。今、わたしたちのクラスでは、そごう的な学習の時間に、地いきの自然かんきょうについて調べています。わたしたちのグループは、西田川の自然を守る取り組みをテーマにすることにしました。そこで、市の取り組みについてのしりょうを送っていただきました。ありがとうございます。

調べて分かったことは新聞にまとめ、地いきの人たちとの交流会で発表する予定です。ぜひ、ご協力をお願いします。だんだん暑くなってきましたが、お体に気をつけてください。

○ ○ 二〇二四年六月二十八日

谷川小学校 四年一組 ○

森田 あや ○

○ ○ 市役所  
中田ひろき様

前文

( )のあいさつ

本文

用件

分かりやすく書く。

末文

結びのあいさつ

気づかう文を書く。

後付け

日付

( )の名前  
( )の名前

( )と、  
( )を  
( )を

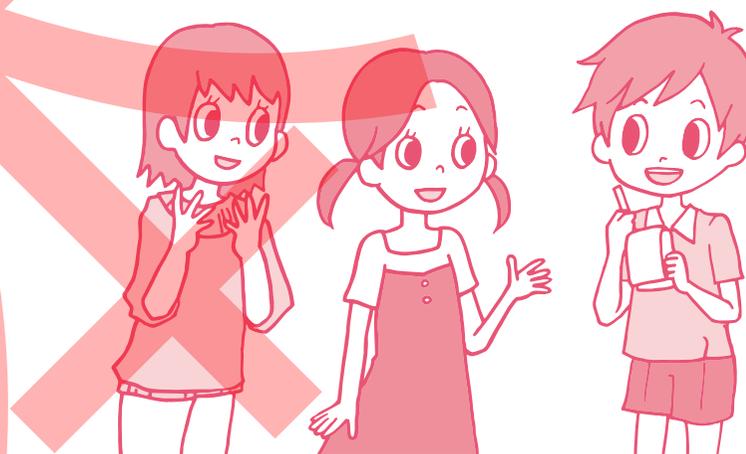


住	食	衣	
		(例) ふろしき	和
		(例) バッグ	洋

「材料を集めて整理しよう。」  
 (1) 「衣」「食」「住」の和と洋を探して書こう。

# 「和と洋新聞」を作ろう

○目的に合わせて材料を整理して書きましょう



				どんな記事	新聞名 (題字)
				分量	○記事にしたい出来事と書く人
				書く人	
				取材	

(2) グループで話し合い、新聞作りの計画を立てよう。

「くらしの中の和と洋」を読んで学んだことを生かしながら、身の回りの「衣・食・住」の和と洋について調べ、新聞を作りましょう。

### 学習の見通し

- ① 材料を集めて整理する。
- ② 記事の下書きを作る。
- ③ わり付けをする。
- ④ 新聞を完成させる。

☆知らせたいことを新聞で伝えるために：

- ・「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」を落とさずに書く。
- ・写真や図、絵などの資料を取り入れて、分かりやすい記事を書く。
- ・見出しはなるべく短い言葉でまとめ、読み手の興味をひくものにする。
- ・伝えたいことに合わせて、記事の分量やおき場所を考え、わり付けをする。

二 取材をして分かったことを整理して書こう。

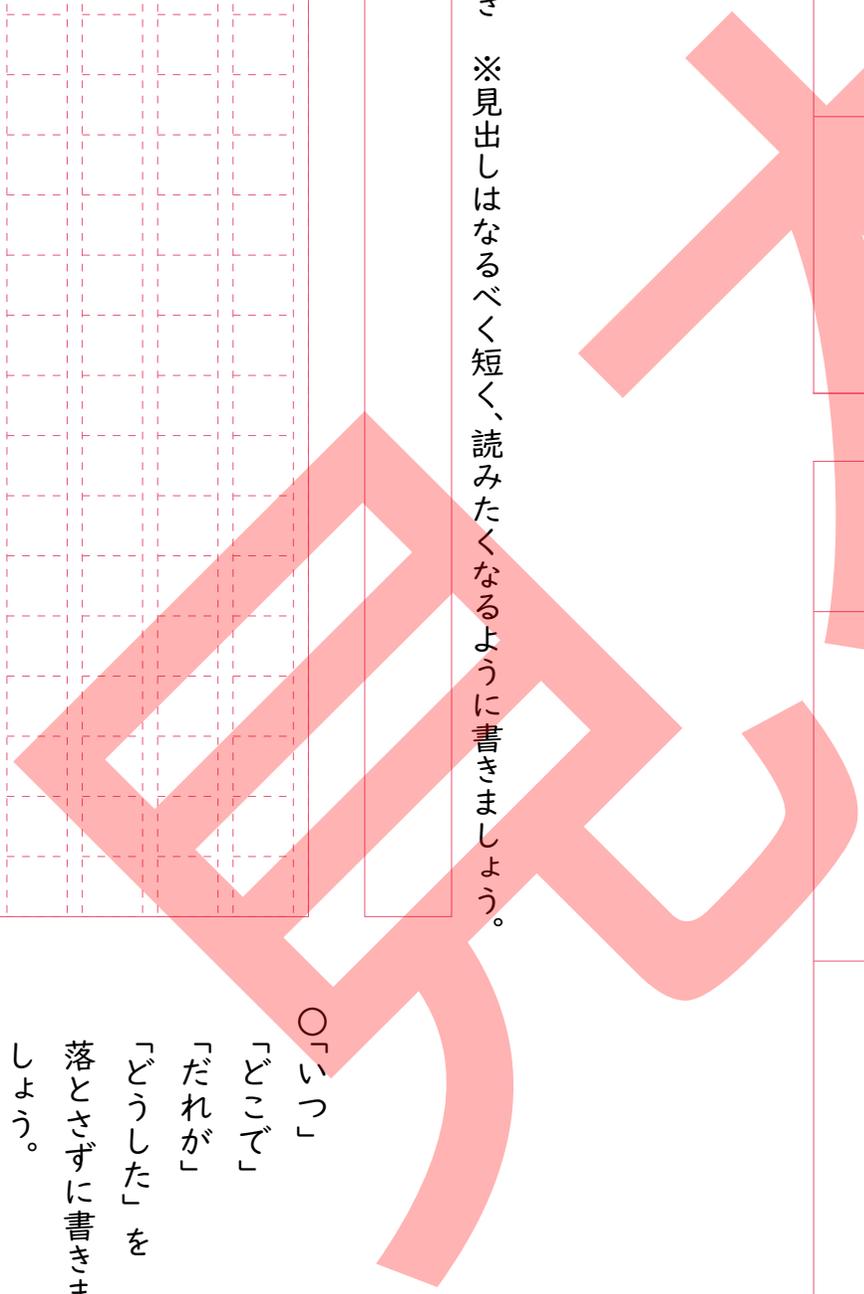
(例)

使い方	形	
ものを包む	正方形	ふろしき
ものを入れる	いろいろな形	バッグ


○新聞記事の下書き ※見出しはなるべく短く、読みたくなるように書きましょう。

- ・見出し

- ・本文



○「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」を

落とさずに書きましよう。

○事実の後に、説明や感想も書きましよう。

○計画した分量の文字数で書きましよう。

○文章や写真を引用するときは、引用のルールを守りましよう。

三 教科書（下）P26の二次元コードを参考に<sup>さん</sup>してわり付けを考え、新聞を完成させよう。  
○わり付け表



- 本文が書けたら、記事に合った写真や絵、図表やグラフを考えましょう。
- 書いた下書きをグループで読み合い、よりよい記事になるようにしましょう。
- ・まちがっている字や、分りにくい文はありませんか。
- ・伝えたいことが分かる文章になっていますか。

四 書いた新聞を読み合おう。

情報を整理し、分かりやすく伝えられたでしょうか。書いた新聞を友達と交かんして、読み合い、感想を書いてもらいましょう。

( )	( )
より	より
( )	( )
より	より

五 友達からの感想を読んで、自分の新聞をふり返ろう。

( )
より
( )
より

二 物語の組み立てを考えよう。

山場の場面での変化が分かるように、場面ごとに起こる出来事や会話、様子などを書き出し、物語の組み立てを考えましょう。

□組み立てメモ

出来事・会話・様子など

気をつけること

始まり

- ・時・場所・中心人物などをしようかいしましょう。
- ・中心人物の困っていることやなやんでいることなど物語の始まりを書きましよう。

- ・それぞれの人物の行動や、どんな気持ちなのか考えましょう。
- ・会話も想像して書いてみましょう。

山場に向かう部分

- ・山場で起こる大きな変化に向けて物語を進めましょう。(変化をあたえる出来事や人物との出会いなど)

山場

- ・いちばん大きな変化が起こる場面です。どのような変化が起こるかじっくり考えましょう。(中心人物の気づき、発見、おどろき)

山 場

終わり

- ・中心人物が前向きな姿に変化していることを書きましよう。

三 「組み立てメモ」をもとに、物語を書こう。

想像した出来事や人物の様子が伝わるように、場面の様子をくわしく書きましょう。

番 名前 ( )

( )

◎書き終えたら、物語を友達と読み合い、おもしろかったところや、山場の変化や場面の様子がよく分かるように書いていたところを伝え合いましょう。

四 組み立て表にしてみよう。

番 名前 ( )

○ 始め

- ・ (例) その本を読んだきっかけ
- ・ 物語の中の感動した場面
- ・ 深く考えたことや疑問

○ 中

- ・ (例) 自分の毎日の生活とくらべながら書く。
- ・ 中心人物や作者・筆者に手紙を書くような気持ちで書く。
- ・ 中心人物以外の人物の言ったことやしたこと、考え方とくらべるのもよい。

※書くときに気をつけること

- ・ 自分がいちばん感動したことと関係のあることをあげながら、そのわけを書いていくとよい。
- ・ 内容のしよいかいが長くないように気をつける。

○ 終わり

- ・ (例) ぎ問に対する自分の答え
- ・ これからの自分の目標 (自分の生活に生かせること) など、これからの自分の生活につながる書き方をくふうしてみる。

終  わ  り	中	始  め

五 組み立て表をもとに原こう用紙に書こう。

⑤ お願いやお礼の手紙を書こう

のりしろ

※切り取った用紙をもう一度はることもできます。

キ リ ト リ セ シ ン

## 二 手紙の下書きをしよう。

たしかめたことをもとに手紙を書きましよう。

番 名前 ( )

)

前 文	本 文	末 文	後付け
			

書き出しのあいさつ、自分のしようかいを書きましよう。

☆お願いする手紙の場合

お願いすること、お願いする理由を分かりやすく書きましよう。

☆お礼の手紙の場合

お礼の気持ちと、何に対するお礼の手紙であるかを書きましよう。相手へのお礼の内容を具体的に書きましよう。

相手の健康けんこうを気づかう文を書きましよう。

日付、自分の名前、相手の名前の順しゆんに書きましよう。

## 三 手紙を清書しよう。

手紙を書いたら、読み返して、手紙の内容や言葉の使い方にまちがいがなしかたしかめましよう。

令和  
**6**  
年度版

# 作文の友 4

～書くこと 大好き～

**教**

指導展開例あり



愛知教育文化振興会  
三河教育研究会

<b>4</b>	年	組	名前	
----------	---	---	----	--



原稿用紙の正しい書き方

# 原稿用紙の使い方・書き直し方

題は二、三マスあける

三行目から

書き出しは一マスあける

ただし「から書き出すときは一マスあけない

話しことば・会話は行をかえる

話しことば・会話の二行目は一マス下げる

会話文の次の行から新しく文が始まるときは一マス下げる

話の内容が変わるときも一マス下げる

書き直すときの記号  
つけくわえる  
書きかえる  
とる  
行をかえる

三 人 で に じ の ふ も と を 主 人 で さ が し に 行 く

お 姉 ち ゃ ん が 聞 き ま し た が わ か り ま せ ん

あ る の か な 。 ど こ か ら 出 て る の か な

に じ て ふ し ぎ だ ね 。 ど う し て い ろ ん な 色 が

と 、 お 兄 ち ゃ ん が さ け び ま し た 。

や ん と 遊 ん で い る と 「 あ 、 に じ だ 」

ず っ と 小 さ い こ ろ に お 兄 ち ゃ ん と お 姉 ち

に じ の ふ も と

「。」一マス

す ず 木 し お り

一マスあける

「と」は書くと同じマスに

いちばん下の「,」「。」はマスの中に入れる

さいごの一マスあける

## 先生と保護者の皆様へ

- ・教科書との関連を図っています。
  - ・児童が自分の力で文章が書けるようになることを意図して編集しています。
  - ・参考作品は「みかわの子」や地域の読書感想文集に掲載されているものを使っています。
- なお、掲載作品の学校名、地区名については執筆時の名前で表記されています。

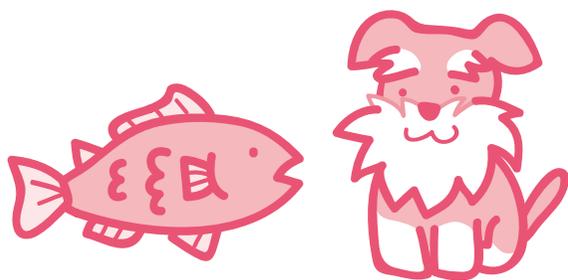
令和6年度版 作文の友 4年

編集 「作文の友」編集委員会  
三河教育研究会  
刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会  
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1  
電話 0564-51-4819  
印刷 あいち印刷株式会社

※無断で複写・複製することを禁じます。

# わたしのクラスの 「生き物図かん」を作ろう

○だん落どうしのまとまりを考えて書きましよう



○目標 段落同士のまとまりを考えて、リーフレットを作ることができる。  
○関連 上「わたしのクラスの『生き物図かん』」

# 作文の友

～書くこと 大好き～

4



## 目次

〈教科書との関連〉

①	わたしのクラスの「生き物図かん」を作ろう……2
	上「わたしのクラスの『生き物図かん』」
②	山場のある物語を書こう……6
	・組み立てを考えて、物語を書きましよう
	上「山場のある物語を書こう」
③	本は友達 四年生の本だな……9
	・読書感想文を書きましよう
	上「本は友達 四年生の本だな」
④	詩を書こう……15
	・言葉から想像を広げて詩を書きましよう
	上「詩を読もう」
⑤	お願いやお礼の手紙を書こう……23
	・相手や目的を考えて手紙を書きましよう
	上「お願いやお礼の手紙を書こう」
⑥	「和と洋新聞」を作ろう……27
	・目的に合わせて材料を整理して書きましよう
	下「和と洋新聞」を作ろう」

指導展開例あり

あなたは、どのような生き物が好きですか。動物や  
こん虫、魚や植物など、自分が好きな生き物について、  
調べて分かったことや考えたことをリーフレットにま  
とめましよう。

### 学習の見通し

- ①好きな生き物をえらび、材料を集める。
- ②だん落どうしのまとまりを考える。
- ③リーフレットを作る。
- ④クラス一さつの「生き物図かん」をまとめる。

☆「だん落どうしのまとまりを考えて書く」ために……

- ・読み手に伝えたいことの中心を明らかにして書く。
- ・問いと答え、調べて分かったこと、自分の考えなど、一つ一つのだん落の内容と、だん落どうしのまとまりをあわせて考えて書く。
- ・読み手に分かりやすく伝えるように、「始め」「中」「終わり」など、文章全体の組み立てを工夫して書く。

一 好きな生き物をえらぼう。

(1) あなたは、どのような生き物が好きでしうか。動物やこん虫、魚や植物などから、好きな生き物をえらびましょう。

好きな生き物

(2) えらんだ生き物について、気になることや知りたことを書き出し、本やインターネットで調べよう。動物園や植物園、ペットショップで働いている人に聞いてみるのもよいです。知りたいと思ったことや、調べて分かったことなどは、メモに書き出しておきましょう。

図かんにのせたい生き物

知りたいと思ったこと

調べて分かったこと

• • • • •

二 だん落どうしのまとまりを考えよう。

集めた材料をもとに、リーフレットの組み立てメモを書きましょう。中ページで伝えたいことは何かを考え、問いと答え、自分の考えなど、だん落どうしのまとまりが分かりやすくなるよう整理するとよいですね。

(始め) 表紙	テーマ	
(中) 中ページ	くわしく伝えたいこと	
(終わり) うら表紙	まとめ	

# 山場のある物語を書こう

○組み立てを考えて、物語を書きましょう



罫線増設用(P36で使用)



○目標  
○関連

山場で起こる変化を想像し、構成を工夫して物語を書くことができる。  
上「山場のある物語を書こう」

※調べた情報をそのまま引き写すのではなく、内容を取捨選択させる。  
※知らない人が読んでも分かる文章であるか、丁寧な書き方になっているか推敲させる。

絵を見ながら、山場で起こる変化を想像して、物語を書きましょう。

## 学習の見通し

- ① 物語の設定を<sup>せってい</sup>考える。
- ② 物語の組み立てを考える。  
↓組み立てを考えて物語を書く
- ③ 物語を書く。
- ④ 物語を読み合い、感想を伝え合う。

☆組み立てを考えて物語を書くために

- ・ 物語の山場で起こる大きな変化について考える。
- ・ 始まりの場面、山場へ向かう部分、山場、終わりの場面の組み立てで書く。
- ・ 山場で、何が変わったのか、なぜ変わったのかを考えて書く。

三 リーフレットを作ろう。

メモをもとに、文章を書き、リーフレットを完成させましょう。リーフレットの題名や、どのような絵や写真をのせるか、考えましょう。下書きが書けたら、文章を見直し、リーフレットを清書しましょう。見出しの内容が、よりくわしく分かるように書くことよいですね。

四 作ったリーフレットを友達と読み合い、たがいのよいところを見つけて伝え合おう。

( )	より( )	( )	より( )	( )	より( )
( )	より( )	( )	より( )	( )	より( )
( )	より( )	( )	より( )	( )	より( )

五 友達からの感想を読んで、自分の書いたリーフレットをふり返ろう。

一 物語の設定を考えよう。

教科書(上)83ページの始まりの場面と終わりの場面の二まいの絵から想像を広げて、時、場所、人物などの物語全体の設定を考えましょう。

時	ある夏
場所	広い海

人物

【中心人物】  
イワシの子

- 【せいかく など】
- ・わくわくすることが好き。
  - ・あまり考えずに行動する。
  - ・自分の地味な見た目がきらい。

【中心人物以外の人物】  
ねったい魚

- 【せいかく など】
- ・おだやかなせいかく。
  - ・海の生き物についてよく知っている。
  - ・イワシにあこがれている。

※教科書(下) P145 「言葉の広場 人物のせいかくを表す言葉」を使うとよい。

・絵にかかれてるのは、いつ、どんな場所なのか考えましょう。

・それぞれの人物の名前やせいかくを考えましょう。また、その人物が好きなこと、こまっていることなどについても考えて書いてみましょう。

- 二 物語の組み立てを考えよう。  
三 「組み立てメモ」をもとに、物語を書こう。  
二・三は後ろの33ページ〜36ページを使いましょう。
- 四 作った物語を友達と読み合い、おもしろかったところや、山場の変化や場面の様子がよく分かるように書いていたところを伝え合おう。

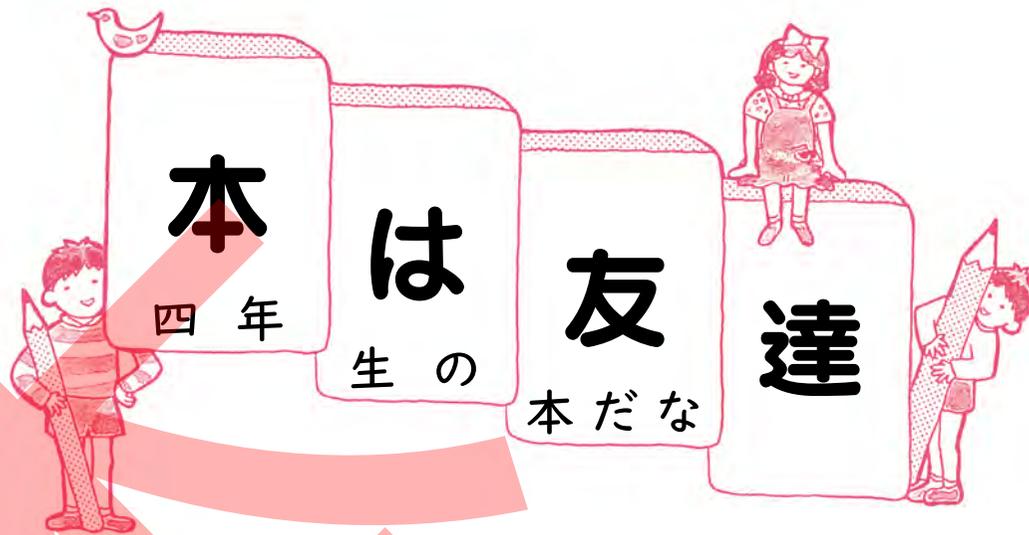
( )	( )	( )
より	より	より

五 友達からの感想を読んで、自分の書いた物語を振り返ろう。

( )	( )	( )
より	より	より

※山場で起こる変化を表すために、気をつけたことを書かせる。

○目標 感動した場面をはっきりさせて、自分の考えを書くことができる。  
 ○関連 「上」「本は友達 四年生の本だな」



○読書感想文を書きましょう

本を読むと、わたしたちは、新しいことを知ったり、強く心をゆさぶられたりします。そして、いろいろなことを考えさせられます。

本を読んで、強く心をゆさぶられたり、考えたりしたことを書いてみましょう。書くことによって、より深く考え、自分を見つめることができるようになります。

本を読んで感じたことや考えたことをすなおに書いてみましょう。その本を読んでいない人にも、よく分かるように書きましょう。

ただ「おもしろかった」とか、「感心した」と書くだけではなく、「どうおもしろかったのか」「なぜ、自分は感心したのか」を書くことが大切です。

また、自分の考えやけい験をもとにして書くこともよいでしょう。

一 感想を出し合ってみよう。

- すばらしい本と出会うことで、あなたの生き方や考え方が大きく変わることもあります。そんなすてきな本と出会うために、いろいろな本を読んでみましょう。
- 読んだら、友達と感想を話し合ったり、その本の良さをしようかいし合ったりしましょう。自分では気づかなかったことを見つけたり、友達のよい考え方や感じ方に会えたりします。また、話すことで自分の考えがまとまります。



ろく 読書記録

読んだ日	書名	作者名	分類
月 日			
感想			
月 日			
感想			

## 二 作品に学ぼう。

### ほんの少しの勇氣

江南・草井小 三ツ野 あさぎ

- ① ペラペラとめくって、すぐに本をとじた。何となくこの本を読もうという気になれなかった。それはたぶんサトシが未来のわたしと重なって見えたからだと思う。
- ② 主人公のサトシは転校して来たばかりで友達が作れず、いつもひとりぼっち。作ろうとしなくても友達がいたサトシには、友達の作り方がわからない。友達がほしい。それが、サトシのねがいだった。
- ③ わたしが転校すると決まったのは、四年生になってすぐのことだ。泣いているわたしに、「きつとすぐに友達ができるよ。」とお母さんは言ったけど、すぐに友達ができるとはどうしても思えなかった。今の友達は何年も何年もかけてしぜんと仲良くなった子たちばかりだ。それなのに急に友達が作れるはずなんてない。転校先でひとりぼっちでいるサトシが、未来のわたしに見えてきて、ふあんでおねが苦しくなった。

- ④ そんなサトシのもとに青いカップがやって来る。サトシはとまどいながらも、カップと今までやったことのない新しいことにしようせんしていく。
- ⑤ わたしには、なぜカップがねがいに関係のないことばかりさせるのか分からなかった。友達を作ってあげればすぐにサトシのねがいはかなうのに。でも、「たいていの願いごとは、本人の力でどうにかなるのさ。」というカップの言葉で、サトシに自分の力でやりとげるうれしさを知ってほしかったからなんだと気がついた。「ちょうせん、ちょうせん！」と何回もサトシに言い聞かせていたのは、サトシをばげまそうとするカップのやさしさだったんだらう。「やりなさい」って言われてもちっともうれしくなんかないから。
- ⑥ 新しいことになかなかちょうせんできないところもわたしとサトシはそっくりだ。初めて食べるものは食べてもないのに、つい「きらい」って言ってしまったり、運動が苦手だから、やったことのないスポーツは「どうせできない」って思ってしまう。でも、この本を読んでカップとサトシにほんの少し勇氣をもたらした。初めから自分の力でやりとげるうれしさを感じてみたい、そう思えた。

### ☆書き出しをくふうしてみよう

- ① 作者は、本を読む前の自分の思いや考え方から書き出しています。

(~~~~~の部分)

書き出しは、

- ・その本を読んだきっかけ
  - ・本を読む前の自分の思いや考え方
- などを書くときよいでしょう。

### ☆中の部分を組み立てよう

- ② 主人公のサトシについて書いてあります。
- ・作品の内容ないようしよいかいは、あまり長くならないようにしましょう。
- ③ 「わたしが転校すると……」のように、主人公のサトシと作者の共通点を書いてあります。
- ・自分の立場やけい験とくらべて書いています。

- ④ サトシが変わるきっかけとなった、カップをしようかいています。
- ⑤ 「わたしには、なぜカップが……」では、書きたい内容である、疑問に思ったことを最初さいに書いています。
- ・「友達を作ってあげればすぐにサトシのねがいはかなうのに。」  
『やりなさい』って言われてもちっともうれしくなんかないから。』のように、思ったことや感じたことをそのまま書くのもくふうです。(~~~~~の部分)
- ⑥ サトシと自分を重ねて、サトシがカップをきっかけにちょうせんすることができたように、わたしもこの本をきっかけとして、自分の力でやりとげてみたいという思いを書いています。(~~~~~の部分)

⑦ わたしは、十二月からドイツの日本人学校に通う。少しずつ引っこしのじゅんびも始まって、心がそわそわ落ち着かない。本当は住みなれた今の家のままがいい。本当は今の学校で、今の友達のままがいい。でも、ずっと変わらないままでもいいからって、下を向くのはもうやめようと思った。きっとこれはわたしが変わるチャンスだから。成功するかしっばいするかなんてわからないけど、転校したら、新しい友達を作るという大きなチャレンジをしてみよう。初めはドキドキして、声もかけられないかもしれない。そんなときは、カッパの言葉を思い出そうと思う。

「ちようせん、ちようせんく！」

きっとわたしにも、ちようせんする勇気をくれるはずだ。

(『読書感想文集 天空』令和四年度)

著者 松井 ラフ

書名 「青いあいつがやってきた!」

発行所 文研出版

☆終わりの部分をくふうしよう  
 ⑦ 本を読んで見つけた目標ひょうを書いて終わっていますね。本の登場人物のせりふも効果的に使われています。心に残るのこようなまとめ方にすることも大切です。(……の部分)



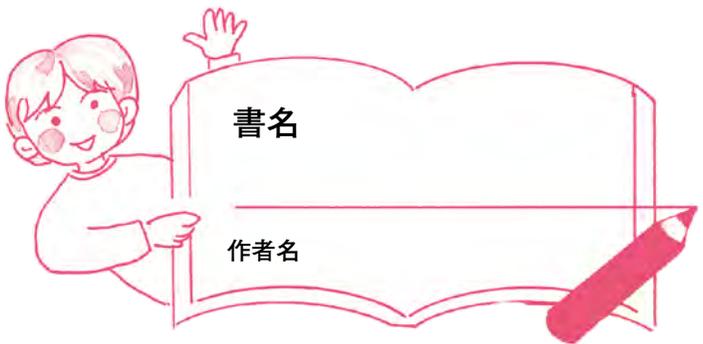
### 三 感想をメモにまとめてみよう。

心に残った本を一さつ選えらんで、感動した場面を中心にメモをしましょう。

①この本を選んだわけ、この本と出会ったときのことを書いてみましょう。

②心に残った登場人物の言葉や行動をぬき出してみましよう。

③この本を読んで考え直したことや、考えさせられたことを書きましよう。



### 四 組み立て表にしてみよう。

四は後ろの37ページ〜38ページを使いましょう。

○目標 感じたこと、見たことを、読む人に伝わるように表現を工夫して書くことができる。  
○関連 「上」「詩を読もう」

# 詩を書こう

○言葉から想像そうぞうを広げて詩を書きましょう



みなさんは、これまでに詩を読んだことがありますね。おもしろいなと感じたことはありませんか。声に出して読んでみて、楽しいなと思ったこともあるでしょう。

詩は、人の心（気持ち）をうつし出す鏡かがみのようなものです。みなさんの好きな歌にも詩（歌）があります。また、はやくや短歌も詩のなかまです。

みなさんも、詩「習字」や「ぼくは自転車」、「ご飯大好き」を手本にして、自分だけの詩を書いてみましょう。感じたこと、心が動いたことなどを、短い言葉や文を使って自由な形で表しましょう。すなおな気持ちで書いてみましょう。



詩の表現技法

## 習字

知立・来迎寺小 田中 諒

ぼくにとって習字の時間は少し特別とくべつ

ふだんはあまりじっとできないし

おしゃべりなほう

何かするとたいてい

「もっといいねいにやりなさい。」

とお母さん

「落ち着いてやれ。」

とお父さん

だけど習字の時間はちがう

一 書くことを見つけよう。

◎ 心を動かされたことから

毎日の生活の中で、心を動かされたことはありませんか。

(例) ・リコーダーがふけるようになった

・なくした物を友達がいっしょにさがしてくれた

・お母さんにしかられた

・トイレのそうじを進んでした

・手紙を書いたら返事がきた

では、作品「習字」を読んでみましょう。

作者は、いつものおしゃべりな自分ではなくなる、習字の時間の特別な自分のすがたを表したかったのですね。

心を静かにしてきちんと正ぎする

半紙をぴんとのばして筆の先をとがらせる

黒くてぴかぴか光るぼくじゅうを筆にすわせる

お手本を横目で見ながら

鼻でこきゅうを整える

今だと思ふときが来る

すうつとすみかのびて

真っ白な半紙にぼくの心が表れる

足のしびれが気になり出して

となりでいたずらする友達に

仕返ししたいと思ったしゅん間

「ああ、しまった。」

失敗失敗

自分が好きなことをしているとき、いつもは

落ち着きがなくても、集中できる。そんなこと

があります。そんな集中しているときの動作を

一つ一つ順番にいいいに思い出しています。

その動作にこめられた気持ちと、その高まりが

よく伝わってきます。(――の部分)

二 書き方をくふうしよう。

「習字」の書き方には、どんなくふうが見られますか。

① 様子を表す言葉を多く使う

ぴんと

ぴかぴか

すうつと

道具のじょうたいや、動作の様子を表す言葉

を多く使うことで、習字に対する強い気持ちや、特別な思いがよく表れています。

② 言葉をくり返す

失敗失敗

静かに静かに

心の中の言葉をくり返すことで、作者のあせる気持ちや自分に言い聞かせようとする気持ちがより伝わってきます。リズム感も生まれます。

③ 物を人のように見立てて書く

筆が勝手におどり出す

筆が生きているかのように表すことで、作者の思いとはちがって失敗してしまった様子が伝わってきます。ユーモアも感じられます。

心がざわざわすると筆が勝手におどり出す

目をとじて

静かに静かに

もう一度ぼくの特別な時間のぎ式を始める

やった書けたぞと思える日もある

今日はだめだとあきらめる日もある

あせをぬぐうとほほに一すじすみのあと

習字

それは ぼくの好きな特別な時間

(『みかわの子』第53号)

## ぼくは自転車

刈谷・住吉小 青木 悠真

ぼくは自転車

いつもあの子を乗せている  
いろんなところをいっぱい旅したね

あの子が大きくなる度に

ぼくも一生けん命せのびした  
けれどあの子はどんどん大きくなっていく

いつの間にか大きい自転車が来て

最近ぼくはほったらかし

ぼくはほこりをかぶりながら

まだ乗れるよとチリンと鳴らしてみた

ある日あの子はぼくをピカピカにした  
うれしくてぼくはチリンと鳴った

次の日ぼくは車に乗せられた

どこ行くの？

どうされるの？

ぼくはさみしくなってチリンと鳴いた

目を開けるとそこは友達の家だった

小さい子が笑ってくれた

よろしくね 新しいご主人様

ぼくはチリンと元気にあいさつをした

(『みかわの子』第55号)

## ご飯大好き

高浜・高浜小 神谷 郁弥

ぼくは食べているときが幸せだ  
ほかほか、つやつや、もちもちのお米  
ご飯を食べているときが幸せだ  
ご飯が大好きだ  
茶わんに何ばいでも食べられるぞ

おかずを一口

ご飯をパクパクパク

みそしるを一口

ご飯をパクパクパク

気づけば茶わんは空っぽだ

「おかわり。」

ぼくは元氣よく茶わんをわたす

「またごはんばかり食べて。」

「バランスよく食べなさい。」

母さんがあきれ

おかわりが来た

おかずを一口

まだ乗れるよとチリンと鳴らしてみた

ある日あの子はぼくをピカピカにした  
うれしくてぼくはチリンと鳴った

次の日ぼくは車に乗せられた

どこ行くの？

どうされるの？

ぼくはさみしくなってチリンと鳴いた

目を開けるとそこは友達の家だった

小さい子が笑ってくれた

よろしくね 新しいご主人様

ぼくはチリンと元気にあいさつをした

(『みかわの子』第55号)

ご飯をパクパク  
みそしるを一口  
ご飯をパクパク  
それでもご飯が先に無くなる

「母さん、おかわり。」

「食べすぎじゃない。これでおしまいね。」

と、お母さんが言う

「ええっ。」

と、残念そうにぼく

おかずを二口

ご飯をパク

みそしるを二口

ご飯をパク

おかずとご飯の量が同じになった

最後の一口をパク

「ごちそうさま。」

本当はもっと食べたいな

ほかほか、つやつや、もちもちのお米

いつも笑顔にしてくれる

ご飯が大好きだ

(『みかわの子』第56号)

### 三 気持ちを表す言葉をくふうしよう。

詩では、心を動かされたことを題材とするので、気持ちを表す言葉をくふうすることが大切です。下の言葉から二つ選んで、他の言い方を考えてみましょう。

(例)

うれしい

- ・とびはねたくなるほどうれしい。
- ・うれしさのあまり、泣きそうになる。
- ・顔がわらってしまって、なかなか元にもどらない。

気持ちを表す言葉

- ・どきどき
- ・そわそわ
- ・わくわく
- ・楽しい
- ・うれしい
- ・悲しい
- ・びっくり
- ・はずかしい
- ・不安になる

※教科書(下) P145 「言葉の広場 人物の気持ちを表す言葉」を参考に言葉集めをさせるとよい。

### 四 詩に書くことを見つけよう。

このごろの学校生活や家庭生活の中で、心が大きく動いたことを思い出してみよう。楽しかったこと、うれしかったことだけでなく、悲しかったこと、はらが立ったことなども思い出してみよう。

--	--	--	--	--	--	--	--

この中で、詩に書きたいと思ったことについて、□の中に○を書きましよう。

### 五 詩に書くことをふくらませよう。

題材が決まったら、そのときの出来事や様子、気持ちをできるだけくわしく思い出して、詩の材料集めをしましょう。目で見ただけでなく、音、会話、におい、さわりごこち、味などのことも書けるとよいです。

題材

出来事や様子

そのときの気持ち

○目標 相手や目的に応じて書く事柄や言葉の使い方を考え、手紙の形式に気をつけて書くことができる。  
○関連 「上」「お願いやお礼の手紙を書こう」

# ねが お願いやお礼の 手紙を書こう

てき  
○相手や目的を考えて手紙を書きましょう



手紙は、お願いやお礼、案内などいろいろな目的で書かれます。今までに、どんな手紙を書いたり、もらったりしたことがあるか思い出してみよう。

## 学習の見通し

- ① 手紙に書くことをたしかめる。
- ② 手紙を書き、読み返す。  
↓相手や目的を考えて手紙を書く

☆相手や目的を考えて手紙を書くために：

- ・手紙の目的が分かるように、用件をはっきりと具体的に書く。
- ・前文、本文、末文、後付けといった手紙の形式に気をつけて書く。
- ・ていねいな言葉で書く。
- ・書いた手紙を読み返し、まちがいや相手に対して失礼な点がないかたしかめる。

## 一 手紙に書くことをたしかめよう。

次の二つの手紙を読み、手紙の書き方をたしかめましょう。

□市役所の中田さんに、資料の送付をお願いする手紙

初めてお便りします。

わたしは、谷川小学校の四年生の森田あやといっています。今日は、お願いがあってお手紙を書きました。今、わたしたちのクラスでは、そごう的な学習の時間に、地いきの自然かんきょうについて調べています。わたしたちのグループは、西田川の自然を守る取り組みをテーマにすることにしました。そこで、市の取り組みについてのしりょうを送っていただきたいのです。

調べて分かったことは新聞にまとめ、地いきの人たちとの交流会で発表する予定です。ぜひ、ご協力をお願いします。だんだん暑くなってきましたが、お体に気をつけてください。

○二〇二四年六月二十八日

谷川小学校 四年一組

森田 あや

○市役所  
中田ひろき様

※ のような表現を使うことができるよ。

## 前文

(書き出し)のあいさつ

(自分のしょうかい)

## 本文

### 用件

(お願いすること)

(お願いする理由)

分かりやすく書く。

## 末文

結びのあいさつ

(相手の健康)

気づかう文を書く。

## 後付け

日付

(自分)

(相手)

(の名前)

(の名前)

□中田さんへのお礼の手紙

こんにちは。暑い日が続いていますが、お元気ですか。谷川小学校の森田あやです。  
 先日は、しりょうを送ってくださってありがとうございました。先週の土曜日、地いきの人たちとの交流会がありました。しりょうをもとに、下流の市や町との協力についてまとめ発表しました。西田川の自然を守るために、遠くの市や町と力を合わせていることにおどろきました。ご協力いただいたおかげで、分かりやすい発表になったと思います。本当にありがとうございます。ございました。

これからもお元気でがんばってください。さようなら。

〇〇市役所  
 中田ひろき様

〇〇二〇二四年七月十二日

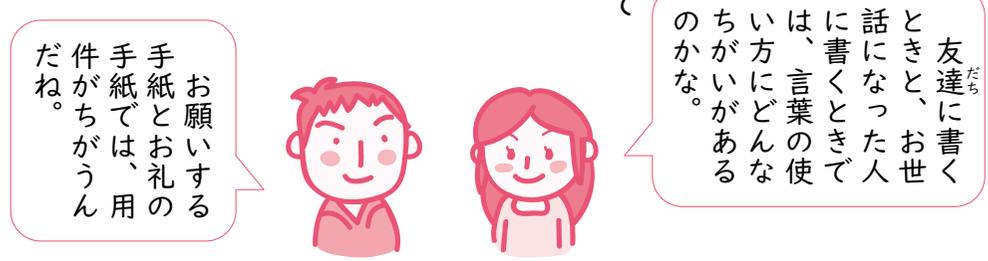
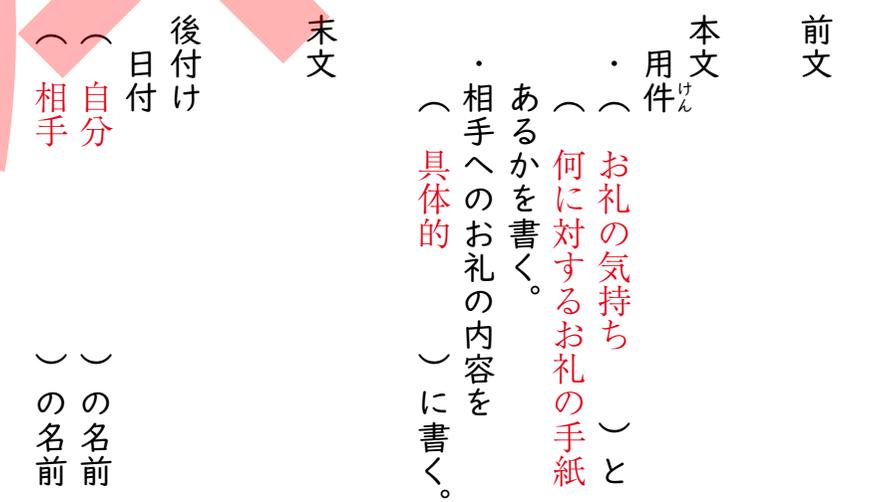
谷川小学校 四年一組  
 森田あや

※このような表現を使うことができますよ。

- 二 手紙の下書きをしよう。
  - 三 手紙を清書しよう。
- 二・三は後ろの39ページ～40ページを使いましょう。
- ◎ 書いた手紙を送るときは、住所とあて名を正しくていねいに書きましょう。教科書のあて名の例をさんこうにしましょう。

うら

表

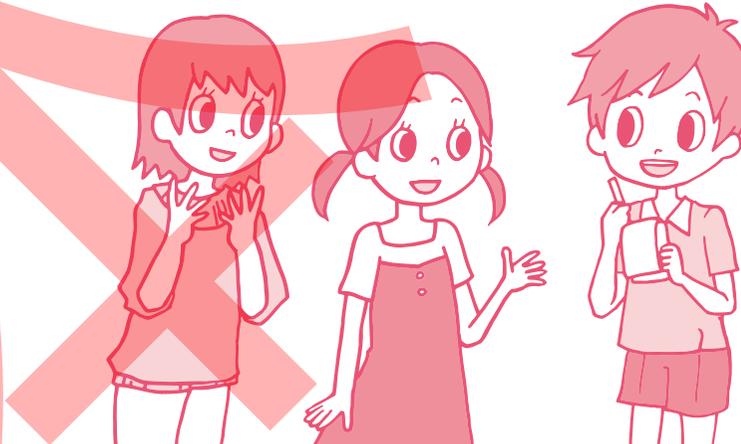


○目標 知らせたいことが明確に伝わるように記事を書き、読み手の興味をひく新聞を作ることができる。

○関連 下「和と洋新聞」を作ろう

# 「和と洋新聞」を作ろう

○目的に合わせて材料を整理して書きましょう



「くらしの中の和と洋」を読んで学んだことを生かしながら、身の回りの「衣・食・住」の和と洋について調べ、新聞を作りましょう。

### 学習の見通し

- ① 材料を集めて整理する。
- ② 記事の下書きを作る。
- ③ わり付けをする。
- ④ 新聞を完成させる。

☆知らせたいことを新聞で伝えるために：

- ・「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」を落とさずに書く。
- ・写真や図、絵などの資料を取り入れて、分かりやすい記事を書く。
- ・見出しはなるべく短い言葉でまとめ、読み手の興味をひくものにする。
- ・伝えたいことに合わせて、記事の分量やおき場所を考え、わり付けをする。

一 材料を集めて整理しよう。

(1) 「衣」「食」「住」の和と洋を探して書こう。

住	食	衣	
		(例) ふろしき	和
		(例) バッグ	洋

(2) グループで話し合い、新聞作りの計画を立てよう。

○新聞名

(題字)

○記事にしたい出来事と書く人

どんな記事	分量	書く人	取材

※まず、最も大きな記事を決め、その後、他の記事を決めるとよい。

二 取材をして分かったことを整理して書こう。

(例)

使い方	形	
ものを包む	正方形	ふろしき
ものを入れる	いろいろな形	バッグ

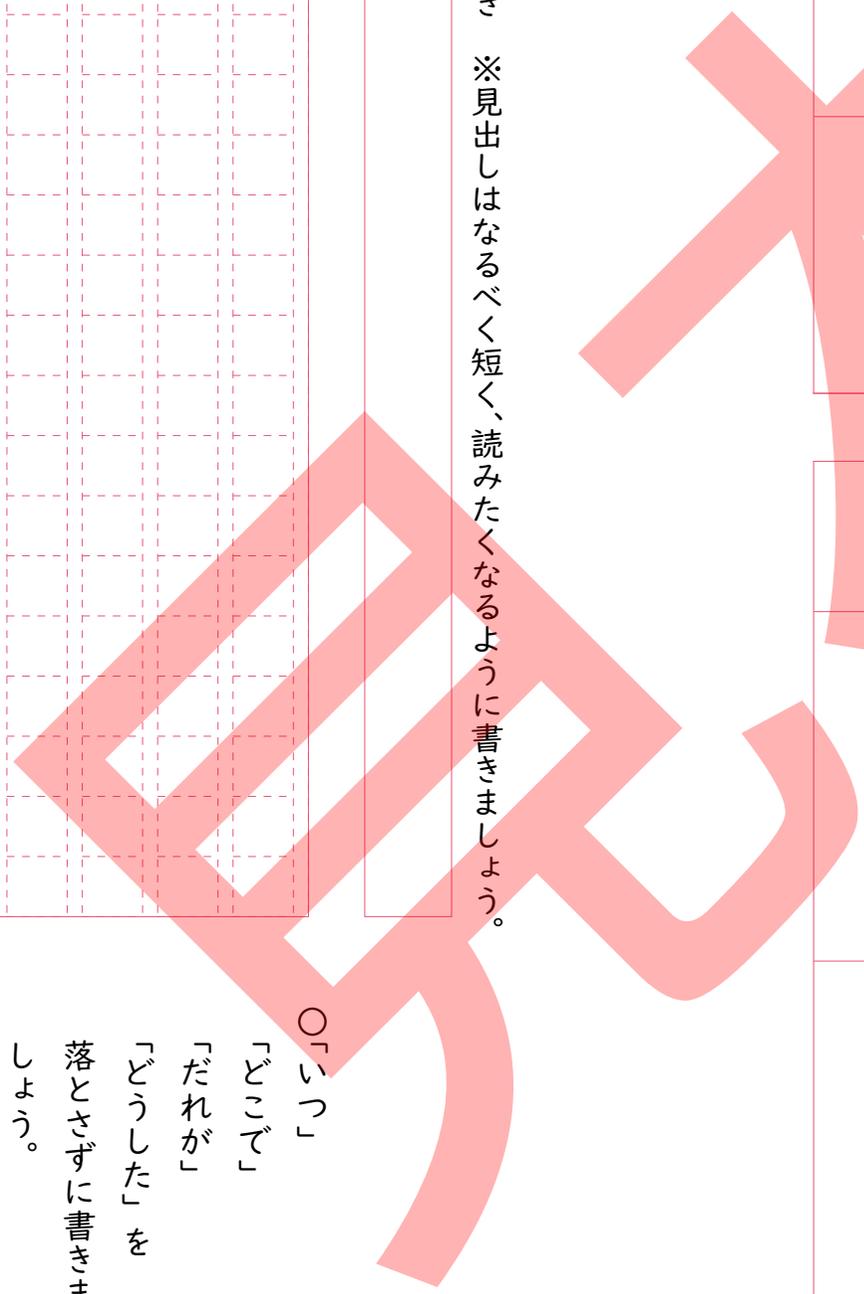
○新聞記事の下書き ※見出しはなるべく短く、読みたくなるように書きましょう。

・見出し

・本文

見出し

本文



○「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」を

落とさずに書きま  
しょう。

○事実の後に、説明  
や感想も書きま  
しょう。

○計画した分量の文  
字数で書きましょ  
う。

○文章や写真を引用  
するときは、引用  
のルールを守りま  
しょう。

三 教科書(下) P26の二次元コードを参考にしてわり付けを考え、新聞を完成させよう。  
○わり付け表

○本文が書けたら、

記事に合った写真や絵、図表やグラフを考えましょう。  
○書いた下書きをグループで読み合い、よりよい記事になるようにしましょう。

- ・まちがっている字や、分りにくい文はありませんか。
- ・伝えたいことが分かる文章になっていますか。

※新聞ができたなら、他のグループの新聞を読み合う時間を設けてもよい。

#### 四 書いた新聞を読み合おう。

情報を整理し、分かりやすく伝えられたでしょうか。書いた新聞を友達と交かんして、読み合い、感想を書いてもらいましょう。

( )  
より

( )  
より

( )  
より

( )  
より

#### 五 友達からの感想を読んで、自分の新聞をふり返ろう。


二 物語の組み立てを考えよう。

山場の場面での変化が分かるように、場面ごとに起こる出来事や会話、様子などを書き出し、物語の組み立てを考えましょう。

□組み立てメモ

出来事・会話・様子など

気をつけること

始まり

- ・時・場所・中心人物などをしようかいしましょう。
- ・中心人物の困っていることやなやんでいることなど物語の始まりを書きましよう。

・山場の場面で、どんな変化が起こるかをはっきりさせるために、変化の前と後の人物の気持ちや様子を、四角で囲わせたり、線を引かせたりして強調させるとよい。

- ・それぞれの人物の行動や、どんな気持ちなのか考えましょう。
- ・会話も想像して書いてみましょう。

山場に向かう部分

- ・山場で起こる大きな変化に向けて物語を進めましょう。(変化をあたえる出来事や人物との出会いなど)

山場

- ・いちばん大きな変化が起こる場面です。どのような変化が起こるかじっくり考えましょう。(中心人物の気づき、発見、おどろき)

山 場

終わり

- ・中心人物が前向きな姿に変化していることを書きましょう。

三 「組み立てメモ」をもとに、物語を書こう。

想像した出来事や人物の様子が伝わるように、場面の様子をくわしく書きましょう。

番 名前 ( )

( )

◎書き終えたら、物語を友達と読み合い、おもしろかったところや、山場の変化や場面の様子がよく分かるように書いていたところを伝え合いましょう。

四 組み立て表にしてみよう。

番 名前 ( )

○ 始め

- ・ (例) その本を読んだきっかけ
- ・ 物語の中の感動した場面
- ・ 深く考えたことや疑問

○ 中

- ・ (例) 自分の毎日の生活とくらべながら書く。
- ・ 中心人物や作者・筆者に手紙を書くような気持ちで書く。
- ・ 中心人物以外の人物の言ったことやしたこと、考え方とくらべるのもよい。

※書くときに気をつけること

- ・ 自分がいちばん感動したことと関係のあることをあげながら、そのわけを書いていくとよい。
- ・ 内容のしよいかいが長くないように気をつける。

○ 終わり

- ・ (例) ぎ問に対する自分の答え
- ・ これからの自分の目標 (自分の生活に生かせること) など、これからの自分の生活につながる書き方をくふうしてみる。

終  わ  り	中	始  め

五 組み立て表をもとに原こう用紙に書こう。

⑤ お願いやお礼の手紙を書こう

のりしろ

※切り取った用紙をもう一度はることもできます。

キリトセシ

番 名前 ( )

)

## 二 手紙の下書きをしよう。

たしかめたことをもとに手紙を書きましよう。

前 文	本 文	末 文	後付け
			

書き出しのあいさつ、自分のしようかいを書きましよう。

☆お願いする手紙の場合

お願いすること、お願いする理由を分かりやすく書きましよう。

☆お礼の手紙の場合

お礼の気持ちと、何に対するお礼の手紙であるかを書きましよう。相手へのお礼の内容を具体的に書きましよう。

相手の健康<sup>けんこう</sup>を気づかう文を書きましよう。

日付、自分の名前、相手の名前の順<sup>じゆん</sup>に書きましよう。

## 三 手紙を清書しよう。

手紙を書いたら、読み返して、手紙の内容や言葉の使い方にまちがいがなかったしかめましよう。

※手紙を書いたら、友達と交換して読み合う時間を設けてもよい。

# わたしのクラスの「生き物図かん」を作ろう

——だん落どうしのまとまりを考えて書きましよう——

《教科書との関連》  
上「わたしのクラスの『生き物図かん』」

## 三 展開例

### 一 学習目標

1 段落同士のまとまりを考えて、リーフレットを作ることができる。

### 二 指導事項

- 1 伝えたいこととその理由を明確にさせて書かせる。
- 2 問いと答え、調べて分かったこと、自分の考えなど、一つ一つの段落の内容と、段落同士のまとまりとをあわせて考えて書かせる。
- 3 読み手に分かりやすく伝えるように、「始め」「中」「終わり」など、文章全体の組み立てを工夫して書かせる。

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
<p>① 学習のめあてをつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>② リーフレットのまとめ方を知る。</p> <p>③ 自分の好きな生き物を選び、一つに決める。</p>	<p>① 自分の好きな生き物について、多くの人に伝えるために、リーフレットにまとめ、リーフレットを集めて「生き物図かん」を作ることを知る。</p> <p>② 教科書(上) P57の参考作品を読んで、効果的な表現の仕方について学ぶ。 中ページに書かれた内容を「問い」の段落と「答え」の段落に分け、そのつながりや工夫する。 ・題や小見出しのつけ方</p> <p>③(1) 動物や昆虫、魚や植物などから好きな生き物を選んで書く。 (2) 考えたものの中から、リーフレットに書くものを決め、その理由を書く。 (設問一(1))</p>	<p>① 伝える目的や相手を明確にさせる。</p> <p>② 設問の部分を考えさせたり、波線部に着目したりして、大まかな内容や書き方についてイメージをもたせる。</p> <p>③ 理科の学習を振り返らせたり、動物園や植物園、ペットショップで働いている人に尋ねたりして考えさせる。</p> <p>○ 図書館の生き物に関するコーナーや、実際に飼っているペットなどから考えさせるのもよい。</p>
<p>④ 書く事柄を集めて整理する。</p> <p>⑤ 段落同士のまとまりを考える。</p> <p>⑥ リーフレットを作成する。</p> <p>⑦ 友達の作品を読み合っ、お互いに評価し合う。</p> <p>⑧ 振り返りを行う。</p>	<p>④ 好きな生き物について、知りたいと思ったことや、調べて分かったことを書き出す。 (設問一(2))</p> <p>⑤ 設問一(2)のメモをもとに、リーフレットの組み立てメモを考える。 (設問二)</p> <p>⑥ 設問一、二のメモをもとに、リーフレットを完成させる。 (設問三)</p> <p>⑦ 作ったリーフレットを友達と読み合い、段落同士のまとまりを考えて書けているか、意見や感想を伝え合う。 (設問四)</p>	<p>④ ○メモは常体でよいことを指導する。</p> <p>○自分がこれまでに知っていることや、本や資料、インターネットなどを参考にさせる。どこから得た情報なのか、メモの後に書かせておく。</p> <p>○調べた具体的事例を「問い」と「答え」として活用させる。</p> <p>⑤ ○教科書(上) P59の「組み立てメモの例」を参考にし、読み手を意識して考えさせる。</p> <p>○題名や小見出しのつけ方についても、読み手の興味をひく言葉を考えさせたい。</p> <p>○写真や絵などの使い方についても考えさせるとよい。</p> <p>○段落同士のまとまりを意識して、メモの情報を選択させる。</p> <p>⑥ ○調べた本の文章などをそのまま載せる場合は、教科書(上) P55の引用のルールを守るようにさせる。</p> <p>⑦ ○お互いに交換し合っ、読み合わせる。 ○評価の観点をもって、読み合う。 ・伝えたいこととその理由がはっきり伝わるか。 ・段落同士のまとまりが考えられているか。 ・読み手に分かりやすく伝わるように「始め」「中」「終わり」など、文章全体の組み立てが工夫されているか。</p> <p>⑧ ○段落同士のまとまりを考えるとき、どのようなことにつけて書いたかを振り返り、できるようにしたことや自己評価させる。</p>

# 山場のある物語を書こう

—組み立てを考えて、物語を書きましよう—

《教科書との関連》  
上「山場のある物語を書こう」

## 三 展開例

### 一 学習目標

1 山場で起こる変化を想像し、構成を工夫して物語を書くことができる。

### 二 指導事項

- 1 絵から想像を広げて、物語の設定を考えさせる。
- 2 山場での変化が分かるように物語の組み立てを考えさせる。
- 3 想像した出来事や人物の様子が伝わるように、場面の様子を詳しく書かせる。

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
<p>① 学習のめあてをつかみ、学習の見通しをもつ。</p> <p>② 物語の設定を考え、メモを書く。</p>	<p>① P 6と教科書(上) P 82を読み、絵にかかれてある出来事から想像を広げて、物語を書くことを確認する。</p> <p>② 教科書(上) P 83の二組の絵から一組を選び、時、場所、人物など、物語全体の設定を考え、P 7のメモに書く。</p>	<p>① P 6を読んで、絵を見て想像したことをもとに、登場人物や場面設定、山場で起こる変化とその結末など、物語の基本的な構成や話の筋を考え、て書くという学習の流れを理解させる。</p> <p>② 中心人物を決めさせ、名前や性格を考えて書かせる。</p>
<p>③ 物語の組み立てを考える。</p> <p>④ 物語を書く。</p> <p>⑤ 友達と物語を読み合う。</p> <p>⑥ 自分が書いた物語を振り返る。</p>	<p>③ 山場での場面の変化が分かるように、P 33、34の組み立てメモに書く。 (設問二)</p> <p>④ P 33、34の組み立てメモをもとに、P 35、36に物語を書く。 (設問三)</p> <p>⑤ 書いた物語を読み合い、感想を交流する。 (設問四)</p> <p>⑥ 友達が書いた感想を読んで、自分の物語を振り返る。 (設問五)</p>	<p>③ ③それぞれの人物の行動や気持ち、人物同士の会話などを考えさせて書かせる。 ○山場の前後には、どんな出来事が起きるのかということも想像させる。</p> <p>④ ④山場は、ほかの場面より詳しく書かせるために、人物どうしの会話を取り入れさせたり、気持ちを表す言葉を工夫させたりする。</p> <p>⑤ ⑤おもしろかったところ、山場の変化や場面の様子がよく分かったところなど、互いの良さを認め合う場をもたせるとよい。</p> <p>⑥ 想像した出来事や人物の様子が伝わるように書いたか、振り返らせるとよい。</p>

# 本は友達 四年生の本だな

《教科書との関連》  
上「本は友達 四年生の本だな」

## 一 学習目標

1 感動した場面をはっきりさせて、自分の考えを書くことができる。

## 二 指導事項

1 いろいろな本を読んで心に残った本を一冊選ばれる。  
2 本を読んで感動したことや考えさせられたことを中心に書かせる。

## 三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
<p>① 本の感想を話し合う。</p> <p>② 読書感想文「ほんの少しの勇氣」を読む。</p>	<p>① ある本を読んだ感想を話し合ったり、本を紹介し合ったりする。 P 10に読んだ本について書く。 (1) 友達の考えや気づきの良さを知る。 (2) 紹介を聞いて、様々な本に興味を広げる。 (3) 参考作品の学習を通じて、読書感想文のまとめ方を知る。 ② 「主人公と作者の共通点」「疑問に思ったこと」が書き表されていることを知る。</p> <p>(設問一) (設問二)</p>	<p>① ①自分の思いを自由に話させる。 ○考えの違いを認めながら、見方を広げたり、考えをまとめたりさせる。 ○さまざまな分野の本を読んでみようと思うように指導する。</p> <p>② ②書き出しを工夫してあることに気づかせる。 ○自分が登場人物とよく似た立場にあったことも書くとよいことに気づかせる。</p>
<p>③ 心に残った本を一冊選んで、メモを書く。</p> <p>④ メモをもとに文の組み立てを考える。</p> <p>⑤ 記述し、推敲する。</p> <p>⑥ 友達の商品を読み合う。</p>	<p>③ 本を選んで理由 心に残った本を1冊選んで、P 14に感動した場面を中心にメモ書きする。 (設問三)</p> <p>(1) 本を選んだ理由 (2) 心に残った登場人物のことばや行動、どんなところがすばらしいと感じたのか。 (3) この本を読んで、考え直したことや考えさせられたこと。</p> <p>④ P 14のメモをもとに、文の組み立てを考える。 (設問四)</p> <p>(1) 必要なメモを選ぶ。 (2) 書く順序を決める。</p> <p>⑤ メモにもとづいて記述する。 (設問五)</p> <p>・書きながら、途中で読み返して推敲する。</p> <p>⑥ 書いた作文を読み合い、まだその本を読んでいない人にもよく分かるかどうか話し合う。</p>	<p>○自分の生き方や考え方とくらべていることに気づかせる。</p> <p>③ ③本からそのまま抜き出すと書きやすい。 ○(2)と対応させて本から抜き出した文章について書くようにさせる。</p> <p>④ ④いちばん感動した場面を中心にすえて構想を練るようにさせる。 ○簡条書きで短く書くようにさせる。</p> <p>⑤ ⑤書き出しを工夫させる。 ○始め・中・終わりを意識しながら書くように指導する。</p>

# 詩を書こう

——言葉から想像を広げて詩を書きましよう——

《教科書との関連》  
上「詩を読もう」

## 一 学習目標

1 感じたこと、見たことを、読む人に伝わるように表現を工夫して書くことができる。

## 二 指導事項

- 心を動かされたことを思い出させる。
- 目の前にあるものを見て、感じたことを書く練習をさせる。
- 題材を見つけ、感じたまま、見たままに書かせる。
- 書き手の思いや表現の工夫に気づかせる。

## 三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
<p>① 作品「習字」を読む。</p>	<p>① 参考作品「習字」の学習を通じて、詩の書き方を知る。 (設問一・二)</p> <p>(1) おもしろいところを探す。 (2) 工夫されている表現を探す。 ・様子を表す言葉 ・繰り返し ・比喩(擬人法)</p>	<p>① 参考作品の良い点を挙げさせる。 ・「もつといていねいにやりなさい。」とお母さん 「落ち着いてやれ。」とお父さん ……対になる表現 ・もう一度ほかの特別な時間のぎ式を始める ……大げさな表現 ・やった書けたぞと思える日もある 今日はだめだとあきらめる日もある ……対になる表現</p>
<p>② 作品「ぼくは自転車」「ご飯大好き」を読む。</p>	<p>② 参考作品「ぼくは自転車」「ご飯大好き」を読む。 (1) 目の前にあるものを違う立場で見ているところを探す。 (2) 他の例がないか考え、発表する。</p>	<p>② 参考作品の作者のものの見方について、気づいたことを挙げさせる。 ○身近にあるものの中で参考例を挙げる。 ・花びんの花 ・いす ・鉛筆 ・消しゴム ・蛍光灯など</p>
<p>③ 気持ちを表す表現を工夫する。</p>	<p>③ 気持ちを表す言葉の言いかえを考える。 (設問三)</p>	<p>④ ○「心を動かされたこと」は、どんなにささいなことでもよい。 書けない児童には、教師がその児童のふだんの生活から想像し、参考例を書いて与える。 ○「目の前にあるものを見て感じたこと」を書くだけでもよい。 ○比喩、擬人法などを使えるとよい。 ○書けない児童には、教師が例を提示する。 ○教師も、準備しておいて、例を挙げる。</p>
<p>④ 題材集めをする。</p>	<p>④ 詩の題材になるものをさがす。 (1) 生活の中で心を動かされたことや目の前にあるものを見て感じたことを書く。 (2) 発表し合い、詩作のヒントにする。 (設問四・五)</p>	<p>⑤ ○詩の長さは問わない。 ○「作文の友」に書いた詩に、——線を引いて言葉をけずったり、行間に書き込んだりする。 書き直す記号については、表紙裏を参照する。</p>
<p>⑤ 詩を書き、推敲する。</p>	<p>⑤ 題材を決めて、詩を書く。 (1) 感じたまま、見たままに書く。 (2) いろいろな言葉をけずる。よりふさわしい言葉に書きかえたり、書き加えたりする。 (3) 原稿用紙に清書する。</p>	
<p>⑥ 友達の作品を読み合う。</p>	<p>⑥ 友達の作品を読み合い、おもしろいところ、なるほどなと思うところ、工夫したところなどを発表し合う。</p>	<p>⑥ ○できれば学級の詩集を作っておきたい。</p>

# お願いやお礼の手紙を書こう

《教科書との関連》  
上「お願いやお礼の手紙を書こう」

## 一 学習目標

- 1 相手や目的に応じて書く事柄や言葉の使い方を考え、手紙の形式に気を付けて書くことができる。

## 二 指導事項

- 1 手紙の目的が伝わるように、用件をはっきりと具体的に書かせる。
- 2 前文、本文、末文、後付けといった手紙の形式に気を付けて書かせる。
- 3 用件や気持ち伝わるように、丁寧な言葉を選んで書かせる。
- 4 目的に合った手紙を書くことができるか推敲して確かめ、相手を意識させて書かせる。

## 三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習のめあてをつかみ、学習計画を立てる。</li> <li>2 依頼状やお礼状の書き方を確かめる。</li> <li>3 手紙の下書きをする。</li> <li>4 手紙を清書する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 相手や目的を考えて依頼やお礼の手紙を書くという学習の流れを確認する。</li> <li>2 例文や教科書(上) P117・118を参考に、手紙の書き方の形式や内容について学ぶ。 (設問一)</li> <li>3 お願いやお礼の内容を考え、下書きする。 (設問二)</li> <li>4 下書きをもとに、相手や目的を考えて手紙を書く。 書いた手紙を送るときは、住所と宛て名を正しく書く。 (設問三)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 手紙を書く相手や目的を明確にさせる。</li> <li>2 教科書(上) P117・118を参考にしながら、設問の部分を考えさせ、手紙の形式や内容について大まかなイメージをもたせる。</li> <li>3 相手や目的に合った言葉を考えさせながら、形式に基づいて下書きを書かせる。</li> <li>4 目的に合わせた手紙を書くことができているか推敲し、相手意識をもって丁寧に清書させる。</li> </ol>

# 「和と洋新聞」を作ろう

——目的に合わせて材料を整理して書きましよう——

《教科書との関連》  
下「和と洋新聞」を作ろう」

## 一 学習目標

- 1 知らせたいことが明確に伝わるように記事を書き、読み手の興味をひく新聞を作ることができる。

## 二 指導事項

- 1 読み手に分かりやすく、興味を持って読んでもらう工夫について考えさせる。
- 2 記事にする対象を吟味し、分担や必要な準備をしたうえで取材させる。
- 3 取材してきたことを記事にまとめ、割り付けを考えさせる。
- 4 観点ははっきりさせて、互いに新聞を読み合わせる。

## 三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習のめあてをつかみ、学習の見通しをもつ。</li> <li>2 新聞を作成する。</li> <li>3 友達のグループの新聞を読み合う。</li> <li>4 自分の新聞を振り返る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科書(下) P23を読み、新聞にはどんな工夫があるかを見つける。</li> <li>2 (1) 「衣」「食」「住」の和と洋を探して書く。 (設問一) (2) 新聞作りの計画を立てる。 (設問二) (3) 取材をして、記事を書く。 (設問三) (4) 割り付けを考えて新聞を完成させる。 (設問四)</li> <li>3 友達のグループの新聞を読み合い、おもしろいところ、なるほどと思うところ、工夫してあるところなどを発表し合う。 (設問五)</li> <li>4 友達からの感想を読んで、自分の新聞を振り返る。 (設問五)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 身の回りの「衣・食・住」の和と洋について調べ、新聞を作るといふ学習課題を確かめさせる。 ○表や写真や絵などがあると記事が分かりやすくなることに気づかせる。</li> <li>2 書いた原稿に、——線を引いて言葉をけずったり、行間に書き込んだりする。 書き直す記号については、表紙裏を参照する。</li> <li>3 各グループの新聞を掲示する。</li> <li>4 友達からの感想を読んで、知らせたいことが明確に伝わるように書いたかを振り返り、できるようになったことを自己評価させる。</li> </ol>